

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	武田（岡崎） 恵利 【ライフサイエンス専攻 平成25年度生】	周産期のメンタルストレスへの対応は、母子共に影響する重要な課題である。これは医学的な問題にとどまらず、社会的にも大きな問題である。先行研究で、無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）を受けた女性では、NIPTを受けていない女性と比較して抑うつや不安が高い傾向があることが報告されている。
論文題目	無侵襲的出生前遺伝学的検査（Noninvasive prenatal testing; NIPT）を受けた妊婦の産後メンタルストレスに対する認定遺伝カウンセラーの役割	本学位論文では、周産期メンタルストレスにおける問題点と出生前診断の現状を元に、NIPTを受けたカップルの医学的・心理学的な背景についてメンタルストレスとの関連について明らかにし（第1章）、さらにメンタルストレスにも関連する双胎妊娠におけるNIPTの精度とその後の経過を示し（第2章）、さらにNIPTを受けた妊婦の産後メンタルストレス上昇のリスク因子が生殖補助医療（特に顕微授精）と低出生体重児であることを明らかにし（第3章）、NIPT をうけた妊婦の産後のメンタルストレスに対して、臨床家にとどまらない認定遺伝カウンセラーの役割と今後の展望について示した。
審査委員	(主査) 教授 三宅 秀彦	研究の第1章および第3章の内容は、筆頭著者としてそれぞれ独立した論文として、同一の国際誌（The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research）に発表しており、第2章についても国際誌に投稿中である。 学位論文の審査にあたって、分子生物学、臨床心理学、生命情報学、臨床遺伝学、遺伝カウンセリング学に精通した審査委員により構成される審査委員会を設置した。第1回審査委員会（平成29年12月27日）において論文内容は十分であるとされたが、論文構成や書式の一部に対して修正意見が出され、第2回審査委員会（平成30年1月24日）において適切な修正がなされていることを確認された。2018年2月23日に開催された公開発表会では、全ての質問に対する的確な回答がなされた。 審査委員会は、本論文は、周産期のメンタルストレスという医学的・社会的に重要な課題について、メンタルストレスを受けやすいNIPTを受けた女性（カップル）に対応するという切り口で、周産期医療に深く関与する遺伝カウンセラーの役割という視点から建設的な議論を行い、今後に向けた提案を示しており、遺伝医療の実践のみならず社会体制の構築においても重要な研究と考え、かつ学術的にも高いレベルにあることが認められた。よって、本論文が博士論文として十分な内容であると評価した。 以上のことより、本審査委員会は、本論文をお茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の博士（学術）、Ph.D. in Genetic Counselingの学位授与に相応しいと判断した。
	教授 菅原 ますみ	
	教授 由良 敬	
	助教 四元 淳子	
	准教授（東京医科大学医学研究科）沼部 博直	
インターネット公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（ 可 ・ ⊖ ）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p>ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p>ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p>⊕. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	

